令和５年度　第４回富士宮市少子化対策推進本部会　議事録

日　時：令和６年２月 29 日（木）午後４時～午後５時

場　所：市役所３階庁議室

出席者：企画部長、企画戦略課長、地域政策推進室長、企画調整係長、芦澤、市川
広報課長、商工振興課長、福祉企画課長、子ども未来課長、健康増進課長
学校教育課参事、女性が輝くまちづくり推進室長

次　第：

１　開会

２　本部長（企画部長）挨拶

３　議事

⑴ 市政モニターアンケート（少子化への対応）の結果について：事務局から説明

（企画部長）

・今回のアンケートは、意識が高く、危機感も持っていると思われる市政モニターが対象である。今後、人口ビジョン策定に関する市民アンケートを実施予定。

・第５次総合計画を作る際のアンケートでは、８割の人が、「結婚したい」「子どもは２人ほしい」という結果だったが、現在その数字が、どれほどになっているだろうか。

⑵ 令和６年度新たに実施（拡充）する少子化対策関連事業について：事務局から説明

（企画部長）

・R6 に実施する事業が一覧となっているが、まずできることから始めた事業であり、十分な成果が出ないかもしれない。

・市レベルでは、厳しく、国の抜本的な施策が必要なのかもしれない。

・九州の自治体のように、半導体の企業を誘致した、というようなことがあれば、一気に解決できると思うが、市はできることから地道にやっていかなければいけない。

（子ども未来課）

・伊豆半島などの小さな市町では、経済支援策を打ち出して、呼び込みをしている。経済的なものが目に留まり、良い印象を持たれているかもしれない。

・富士市が第２子保育料無償化を始めたが、保育需要が急増していることからも、まずは受け皿を作っておくことが大事だと感じる。

・第２子無償、誰でも通園制度により、保育士が辞めてしまう危機感もある。まずは、多子計算の年齢を上げるなど、段階的に考えていくことも必要。

（商工振興課）

・労働人口減少による労働力不足により、女性や高齢者も働き手として貴重だが、若い女性の転出が多い。

・労働環境が整っていないため改善していく必要がある。企業にそれを気づかせないといけない。労働力不足は、企業の存続に関わる問題である。
・時短勤務に目を向けている。企業セミナーの内容から変えることも検討している。
（企画戦略課）
・切り出し仕事の考え方が大事となってくる。企業の意識改革を図らなければならないと考える。
（福祉企画課）
・富士宮市には、子どもを預けられる場所が圧倒的に少ない。預け場所がなければ、働くこともできない。預け場所を増やすことは、かなり即効性のある施策であると思う。
（学校教育課）
・保育士確保に力を入れ予算を投入している自治体のニュースを見た（千葉県の自治体）。人口 20 万人ほどで、100 か所ほどの預け場所があるとのこと。他自治体の事例も研究したほうがいい。
（女性が輝くまちづくり推進室）
・企業回りをして話を聞く機会があった。労働環境改善については、国の制度もあり、やらなければいけないことはわかっているが、なかなか理解が得られない。若い人とコミュニケーションが取れないことが辞職に繋がるとの意見もあった。
（商工振興課）
・長泉町の事例など調べてみたらどうか。
（福祉企画課）
・長泉町も人が足りていないと聞いている。
・保育士の数で施策が決まってくると思う。いかに保育士を増やすのか。保育士確保が最も成果が上がると思う。
（企画部長）
・保育士など現場の声を聴くことも大事ではないか。

⑶富士宮市の人口動態統計について
（健康増進課）
・出生数の減り方が極端。
・市内には、市立病院しか産科がない。産科がないと足が遠のいてしまう。今、市立病院での子どものワクチン接種数が増えているとのこと。市立病院で産まれた子がそのままかかりつけ医としてなっているのか。産科の開業医がないと富士市などへ流れて行ってしまうのではないかと保健師たちは心配していた。
・産科医になろうとする人が少ない。美容外科などリスクが少ない科を希望する人が増えている。
（福祉企画課）
・「産科が少ない、産科を増やす」はイメージ戦略であると思う。
・市立病院で足りている。産婦が少ないことから、産科医が少なくなることへ繋がる。
・速効性のある施策と、コツコツ継続していくような根幹をなす施策がある。速効性のある施策は、子どもの居場所づくりや経済支援策。

４　その他

（企画戦略課）

・今後、本部会の成果を二役に説明する。

・少子化関連事業予算を把握するため、対象事業の抽出をした。近日中に各課に確認依頼をする。